飛鳥時代

名前

問1　大化の改新が行われた際、中国の制度にならって日本で初めて導入され、現代の「令和」に至るまで日本の歴史の中で継続して使われている制度は何ですか。（2026年 愛媛県公立入試 類似）

1. 律令
2. 班田収授法
3. 元号
4. 租・庸・調

問2　かつての都であった藤原京の跡地からは、多くの木簡が発見されています。その中には、現在の長野県にあたる地域から特産物が都まで運ばれたことを記したものがあり、地方まで中央の支配が及んでいたことが分かります。このような統治体制を確立させる契機となった出来事として、最も適切なものはどれですか。（2020年 愛知県公立入試 類似）

1. 墾田永年私財法が出されたことで、地方の有力者が独自に土地を開発し、都に献上する流れが加速した。
2. 大宝律令が制定され、全国を国・郡・里に分けて役人を派遣する律令国家の体制が整った。
3. 東大寺に大仏が造立されたことで、仏教の力によって地方の反乱を鎮める仕組みができた。
4. 冠位十二階の制度が整えられ、家柄にこだわらず才能のある人物を地方の役人に登用した。

問3　大化の改新から始まる一連の政治改革において、中大兄皇子らが目指した国家のあり方として最も適切な説明はどれか。（2025年 岐阜県公立入試 類似）

1. 唐の律令制度を拒否し、日本独自の武士による封建的な主従関係に基づいた政治体制を構築すること
2. 地方豪族を国司に任命してその地域の支配権を完全に認め、地方自治を基礎とした国づくりを進めること。
3. 有力な豪族であった蘇我氏の権限をさらに強化し、貴族たちが合議制によって政治を主導する仕組みを作ること。
4. 土地と人民を国家のものとする公地公民を原則とし、天皇を中心とした中央集権国家を確立すること。

問4　7世紀後半、皇位継承をめぐって起きた「壬申の乱」という大規模な内乱に勝利し、都を再び飛鳥地方に戻して、天皇を中心とした強力な中央集権国家の土台を築いた人物は誰か。（2022年 大分県公立入試 類似）

1. 天智天皇
2. 桓武天皇
3. 天武天皇
4. 聖徳太子

問5　飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）が、政治に関わる役人の心構えを説き、天皇の命令には必ず従うべきであることなどを示した法を何といいますか。（2021年 鳥取県公立入試 類似）

1. 御成敗式目
2. 五箇条の御誓文
3. 武家諸法度
4. 十七条の憲法

問6　7世紀初めの607年、推古天皇の摂政であった聖徳太子（厩戸皇子）は、小野妹子らを中国へ派遣しました。大陸の優れた制度や文化を直接取り入れるために送られた、この使節の名称を答えなさい。（2026年 青森県公立入試 類似）

1. 遣渤海使
2. 遣隋使
3. 遣唐使
4. 遣新羅使

問7　飛鳥時代の天武天皇の時代にあたる7世紀後半につくられたことが判明し、708年に発行された和同開珎よりも古い、現時点で日本最古とされる銅銭の名称を次の中から選びなさい。（2018年 千葉県公立入試 類似）

1. 和同開珎
2. 寛永通宝
3. 富本銭
4. 永楽通宝

問8　聖徳太子が法隆寺を建立した背景にある、この時期の文化的な特徴として最も適切な説明を選びなさい。（2015年 長崎県公立入試 類似）

1. キリスト教の影響を受けた南蛮文化が流入し、石造りのドーム型建築が各地に築かれた。
2. 武士が政権を握ったことで、質実剛健な禅宗の影響を強く受けた寺院が好まれた。
3. 国風文化が発達し、寝殿造と呼ばれる日本独自の貴族建築が広く普及した。
4. 仏教が本格的に受容され、大陸の建築様式を取り入れた寺院が国家や有力者によって建設された。

問9　7世紀後半、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した倭国（日本）は、大陸からの侵攻に備えて九州北部の防衛を強化しました。この際、軍事・行政の拠点であった大宰府を防御するために、その北側に築かれた大規模な土塁と水堀からなる防衛施設の名称を選びなさい。（2022年 神奈川県公立入試 類似）

1. 前方後円墳
2. 板付遺跡
3. 環濠集落
4. 水城

問10　飛鳥時代に聖徳太子が定めた十七条の憲法では、役人が守るべき心得が示されています。この憲法において、人々が争いをやめ協力し合うための「和」の精神とともに、篤く敬うべきものとして挙げられている「三宝（さんぼう）」の具体的な内容はどれですか。（2026年 奈良県公立入試 類似）

1. 仏（ほとけ）・法（みのり）・僧（ほうし）
2. 天皇・和・詔（みことのり）
3. 礼・義・信
4. 儒教・仏教・道教

問11　663年に朝鮮半島の西南部の海域で発生した「白村江の戦い」とその後の日本の動向について述べた文として、正しいものはどれですか。（2020年 和歌山県公立入試 類似）

1. この戦いに勝利したことで、日本は朝鮮半島南部での影響力を強めた
2. 唐・新羅の連合軍に敗れた後、唐の侵攻に備えて防人や烽（とぶひ）を配置した
3. 元の軍勢を暴風雨の助けを借りて退け、これを機に武士の力が強まった
4. 女真族の侵入をきっかけに、朝廷は遣唐使の派遣を完全に停止した

問12　7世紀後半、朝鮮半島での「白村江の戦い」に敗れた倭（日本）の政権が、唐や新羅の侵攻に備えて九州の大宰府付近に設置した、巨大な土塁と水を満たした堀からなる防衛施設の名称を選びなさい。（2019年 神奈川県公立入試 類似）

1. 環濠
2. 防塁
3. 防人
4. 水城

問13　7世紀後半、天智天皇の死後にその跡継ぎをめぐって大海人皇子と大友皇子が争った、古代最大といわれる内乱はどれですか。（2026年 三重県公立入試 類似）

1. 壬申の乱
2. 保元の乱
3. 壬生の乱
4. 平治の乱

問14　7世紀の東アジアの情勢について、朝鮮半島の北部に位置する国家が唐から大規模な軍事攻撃を受けたことで、日本（倭）を含む周辺諸国の国際的な緊張が高まった状況を説明した文章があります。この文章の中で、唐の攻撃の対象となり、東アジアの緊張の一因となった国家として正しいものを選びなさい。（2020年 徳島県公立入試 類似）

1. 加耶（任那）
2. 百済
3. 高句麗
4. 新羅

問15　7世紀の中ごろ、大陸では隋に代わって強力な王朝が成立し、周辺諸国へ進攻するなど東アジアの国際情勢が緊迫していました。こうした緊迫した状況を背景に、日本が周辺諸国に対抗できる強力な中央集権体制を築くために踏み切った政治改革を何といいますか。（2020年 岡山県公立入試 類似）

1. 国風文化の形成
2. 大化の改新
3. 遣隋使の派遣
4. 武家諸法度の制定

答え合わせ・解説

問1	答え 3 元号	645年の改革に際し、日本で最初の元号として「大化」が定められました。これは、天皇が空間だけでなく「時間」も支配するという考え方に基づいたものです。以後、一部の中断を除いて現代まで元号の制度は引き継がれています。
問2	答え 2 大宝律令が制定され、全国を国・郡・里に分けて役人を派遣する律令国家の体制が整った。	藤原京は、大宝律令の制定前後における日本の首都であり、律令に基づいた計画的な都市造りが行われました。出土した木簡は、租・調・庸といった税制度を通じて、中央政府の権力が地方の隅々まで及んでいたことを示す実証的な資料となっています。
問3	答え 4 土地と人民を国家のものとする公地公民を原則とし、天皇を中心とした中央集権国家を確立すること。	大化の改新の最大の目的は、それまで有力豪族（蘇我氏など）が私有していた土地や人民を国家のものとする「公地公民」の制を導入し、天皇に権力を集中させる中央集権国家を築くことにありました。これは当時の唐の制度を参考にしたものであり、後の律令国家形成へとつながる重要な改革でした。「国司の権限を強める」という選択肢は、中央集権化とは逆の方向（地方分権）を指すため誤りです。
問4	答え 3 天武天皇	中大兄皇子（天智天皇）の死後、その息子である大友皇子と、天智天皇の弟である大海人皇子が皇位をめぐって争ったのが壬申の乱です。これに勝利して即位した大海人皇子が天武天皇です。天武天皇は、豪族の影響を抑えて天皇に権力を集中させる政治を推し進めました。
問5	答え 4 十七条の憲法	聖徳太子が推古天皇の摂政として政治を行っていた時期に制定されました。役人に対して道徳的な訓戒を与え、天皇を中心とした国家体制（中央集権国家）を築くことを目的としています。仏教や儒教の教えが取り入れられている点も大きな特徴です。
問6	答え 2 遣隋使	聖徳太子は、中国を統一した隋に対して小野妹子らを派遣しました。それまでの朝鮮半島を経由した交流だけでなく、中国と直接交渉を持つことで、先進的な仏教文化や政治制度を効率的に導入しようと試みました。これにより、冠位十二階や十七条の憲法といった、天皇を中心とする国づくりのための改革が進められることとなりました。
問7	答え 3 富本銭	長らく708年発行の和同開珎が日本最古の貨幣とされてきましたが、1990年代に奈良県の飛鳥池遺跡から大量の銅銭や鋳型が発見されたことにより、それより古い7世紀後半にはすでにこの貨幣が製造されていたことが実証されました。これにより、日本貨幣史の定説が塗り替えられました。
問8	答え 4 仏教が本格的に受容され、大陸の建築様式を取り入れた寺院が国家や有力者によって建設された。	法隆寺が建立された飛鳥時代は、聖徳太子の執政のもとで仏教を中心とした「飛鳥文化」が花開いた時期です。百済（朝鮮半島）などを通じて伝わった大陸の高度な建築技術や仏教信仰が、日本の統治体制や文化の形成に大きな影響を与えたことを象徴しています。
問9	答え 4 水城	663年の白村江の戦いでの敗北後、天智天皇は唐や新羅による日本侵攻を強く警戒しました。大宰府という重要な拠点を守るため、平地を遮断するように巨大な堤防（土塁）を築き、そこに水を溜めて堀としたのが「水城」です。このほか、西日本の各地には朝鮮式山城と呼ばれる城も築かれ、国家的な防衛網が整備されました。
問10	答え 1 仏（ほとけ）・法（みのり）・僧（ほうし）	十七条の憲法は、豪族たちが争うのをやめ、天皇を中心とした国家体制を整えることを目的として制定されました。第二条に記された「三宝」とは、仏教の根本である「仏（ブッダ）」「法（教え）」「僧（集団）」を指します。聖徳太子は、これらを敬うことが正しい政治や道徳の基盤になると考え、仏教の教えを政治に取り入れました。
問11	答え 2 唐・新羅の連合軍に敗れた後、唐の侵攻に備えて防人や烽（とぶひ）を配置した	白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗北した日本は、大陸からの報復を強く警戒しました。そのため、九州の防衛のために防人を置き、急を知らせるための烽（のろし）のネットワークを整備しました。また、天智天皇は都を内陸の近江大津宮へ移すなど、国家の防衛と中央集権化を加速させました。選択肢にある元の侵攻（元寇）や女真族の侵入（刀伊の入寇）は、いずれも白村江の戦いよりも後の時代の出来事です。
問12	答え 4 水城	663年の白村江の戦いで、倭・百済の連合軍が唐・新羅の連合軍に大敗したことを受け、当時の政権は日本への侵攻を強く警戒しました。その防衛策として、九州の政治・外交の拠点であった大宰府を保護するために、現在の福岡県太宰府市周辺に「水城」と呼ばれる全長約1.2kmにも及ぶ大規模な土壁と堀を築きました。あわせて、北九州の沿岸には「防人」と呼ばれる兵士を配置し、警戒を強めました。
問13	答え 1 壬申の乱	天智天皇が亡くなった後、その弟である大海人皇子と、子である大友皇子の間で後継者争いが起こりました。これが672年の壬申の乱です。勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、中央集権化をさらに推し進めることとなりました。
問14	答え 3 高句麗	7世紀、朝鮮半島の北部を支配していた高句麗は、中国を統一した隋やそれに続く唐と激しく対立し、度重なる攻撃を受けました。この強力な唐の動きは朝鮮半島全体や日本にも大きな危機感を与え、日本の国内政治が中央集権化へと向かう国際的な背景となりました。新羅は後に唐と結んで、高句麗や百済を滅ぼすことになります。
問15	答え 2 大化の改新	大陸で隋が滅びて唐が成立すると、唐は朝鮮半島の高句麗など周辺諸国へ攻撃を仕掛けるなど勢力を拡大しました。この国際情勢の変化に危機感を抱いた中大兄皇子や中臣鎌足らは、蘇我氏を倒して天皇を中心とした強力な国家体制を整えようとしました。これが645年から始まる一連の政治改革である大化の改新です。